

韓国 社会的企業支援センター

皆さまの総会を心からお祝いします

皆さまの総会を心からお祝い申し上げます。また、この紙面を通じて皆様にご挨拶や消息を伝える事を有り難く思っています。特に今度の総会が広島で開かれるに際し、協同に向かう人類平和の必要性を再び確認しています。

私は個人的に1年6ヶ月ほどイギリス、フィリピン、インドで社会的企業や貧しい人達の地域共同体運動、そして精神的な問題に関連した短い勉強をする機会をえました。短い経験でしたが、韓国の協同組合運動に関わる自分の考えを整理するのに多くの助けを得ることができました。イギリスの社会的企業へ訪問し、サンダーランド(sunderland)へとどまった時には日本からもここに立ち寄ったと言う事を聞きました。

イギリスでの経験で印象に残ったのは「社会的企業家養成」に彼らが深い関心を持っている事です。また別の印象として残ったことは、社会的企業を支援するための多様な支援組織の存在でした。一般企業体の専門家を社会的企業支援の奉仕者に育て、地域の社会企業とも連携しようとする努力や、ロンドンの社会的企業の学校が運営する「社会的企業家養成コース」が多様に存在していることが非常に印象的でした。韓国の労働者協同運動や社会的企業はすでに社会的専門性、経営能力、協同運動のビジョンをバランス良く備えた「社会企業家」養成が特に必要な時点にきています。こうしたイギリスの経験は、私にはとても印象的でした。

インドにはガンディー・アシュラム (Gandhi Ashiram) で2週間泊まり、ガンディーが始めた地域共同体プロジェクトやイギリスの産業共同所有運動に影響したトラストシップ(Trust-ship Movement)運動についての短い文章を読みながら協同運動と関連した重要な示唆をえました。彼のトラストシップ運動は人々が持っている人間的尊厳と真理に向かう深い信頼を基盤にしています。人間の尊厳に基づいた深い信頼を基礎にした連帯の努力が、私たちの協同の理念や目標に多くの示唆を与えてくれていると思います。

1ヶ月前に私は帰国し、現在は新しい教会で野宿者の支援事業を行っています。これまで

の韓国の経験や短い間の外国での経験を元にして協同組合運動に参加している人達の教育や訓練を手伝い、野宿者と共に社会的企業と関連した悩みとその解決にむけた事業の準備をしています。

改めて皆さんの総会をお祝いし、深い交流と連帯を通じ今後も平和の運動を共に進めることが出来るよう願っています。

社会的企業支援センター理事
金弘一（キム ホンイル）